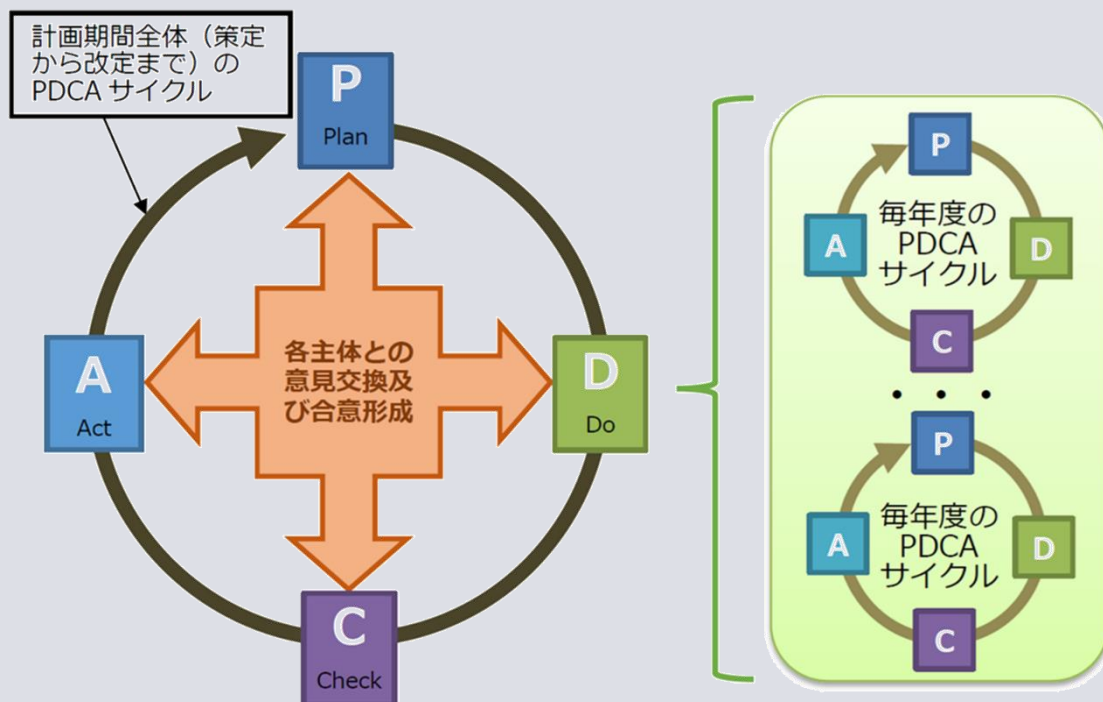


第8章 地球温暖化対策を確実に進めるために (計画の推進体制と進行管理)



目標達成に向けた PDCA サイクル

出典：環境省

1 ゼロカーボンシティをめざすための手順（ロードマップ）

○ここでは、これまでに行った 2050 年ゼロカーボンに向けた検討内容を時間軸に落とし込み、基本方針ごとにロードマップ*の作成を行いました。

○2030 年度までは有珠山噴火の影響を考慮し、省エネや情報提供を主体で行い、その後再エネ導入を目指します。

○今後は、以下のロードマップを踏まえて、各施設・建物での省エネ、再エネの導入、町民への情報提供などを進めていきます。

○また、中間年である 2030 年度に計画の見直しを図り、その後も目標達成に向けた計画の修正や追加施策を講じながら、取組を進めていきます。

○設定した再エネ導入量の目標値を踏まえながら、各取組を着実に進めることで、地域課題解決と CO₂ 排出量実質ゼロ（ゼロカーボン）が達成された 2050 年度の脱炭素社会実現を目指します。

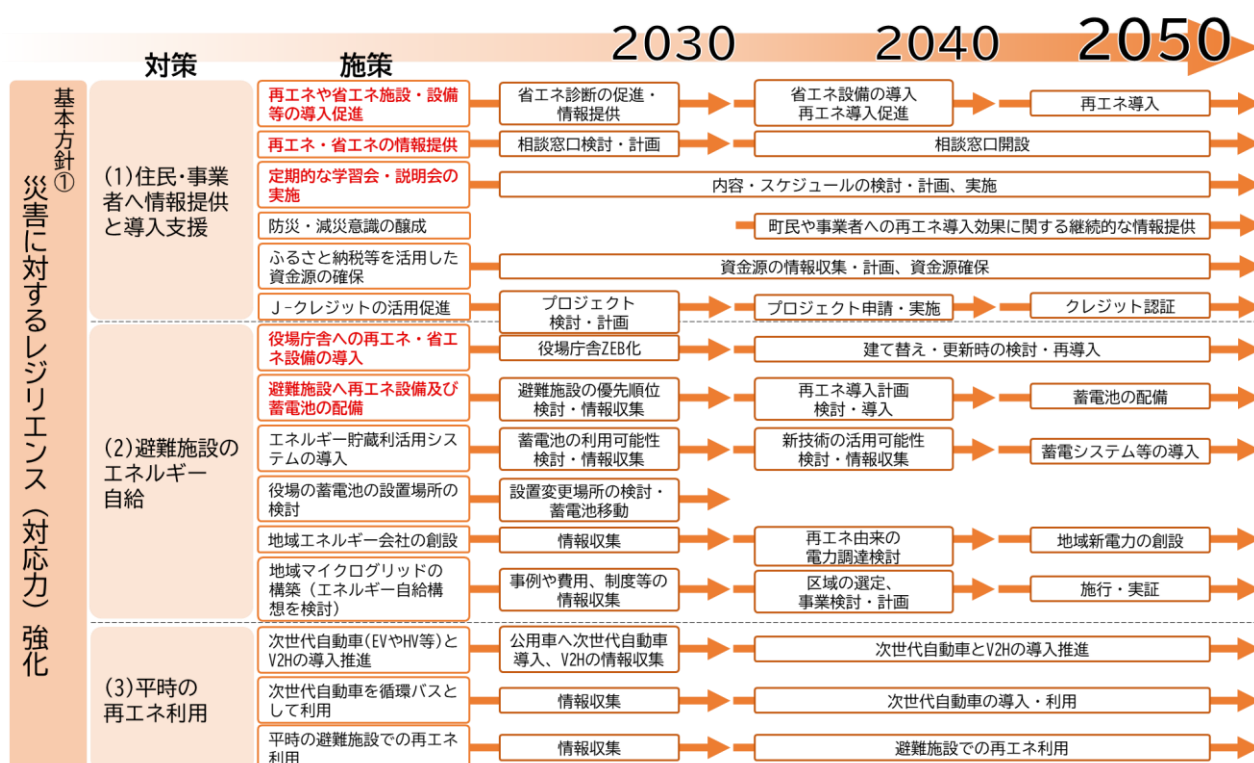


図 8-1 災害に対するレジリエンス（対応力）強化に対するロードマップ

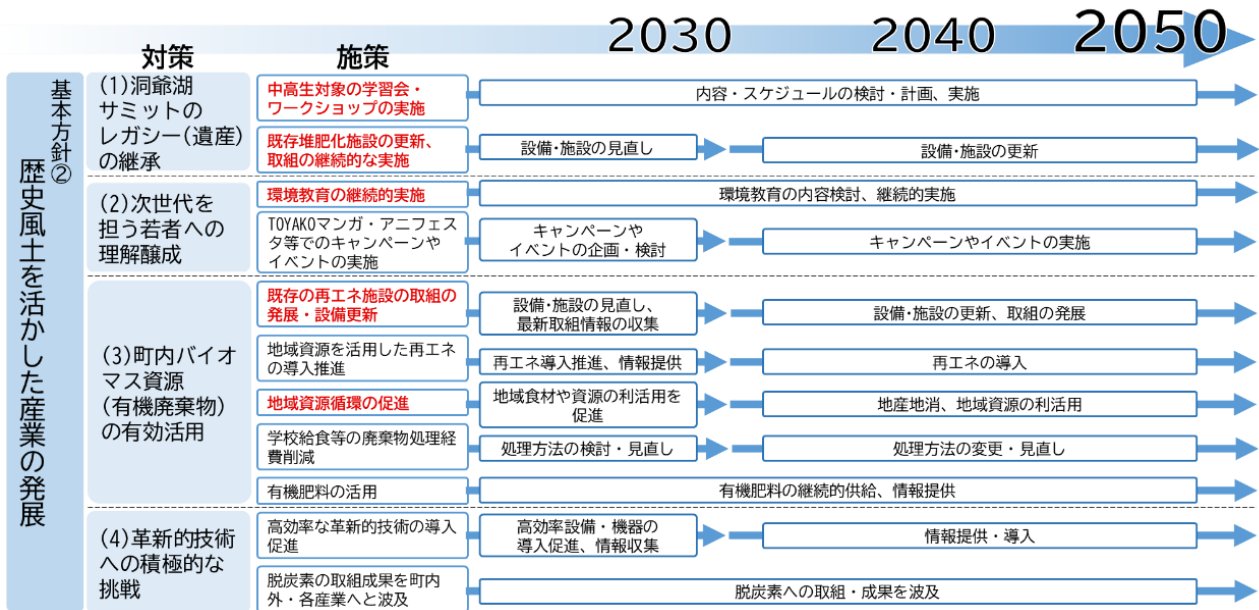


図 8-2 革新と歴史風土の融合による産業の発展に対するロードマップ

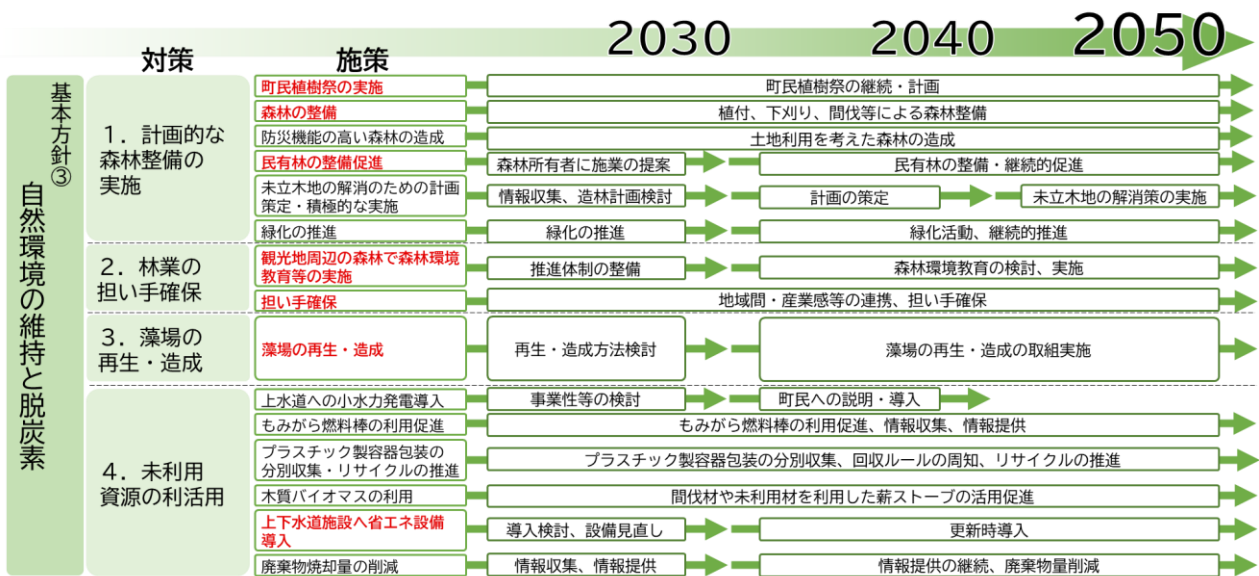


図 8-3 自然環境の維持と脱炭素に対するロードマップ

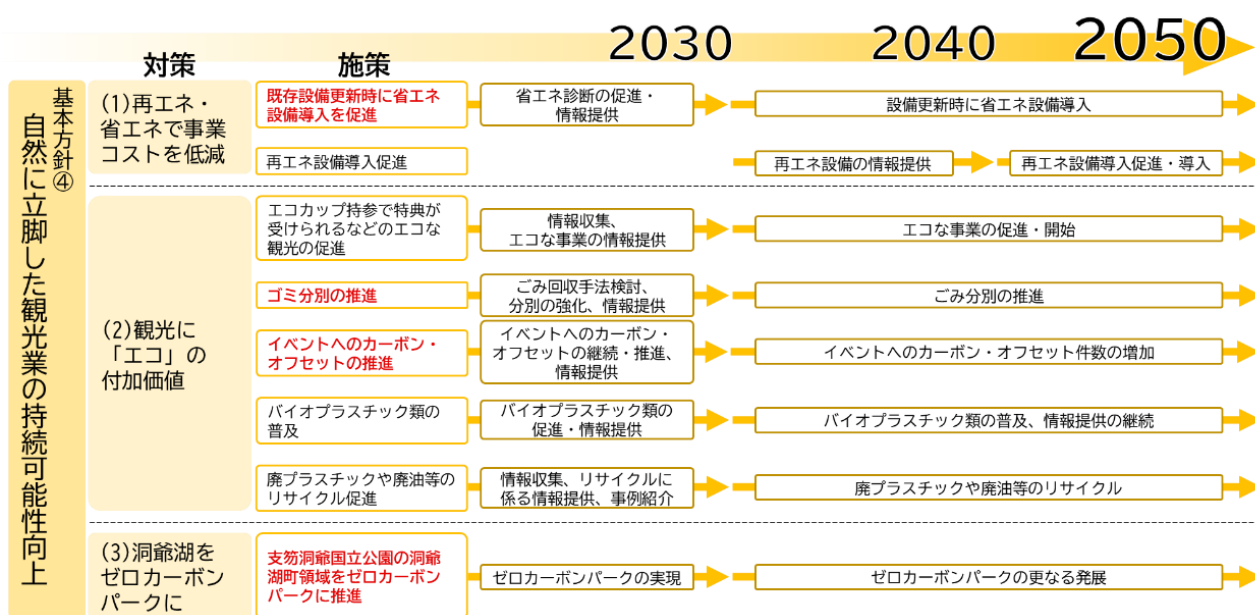


図 8-4 自然に立脚した観光業の持続可能性向上に対するロードマップ

コラム⑦

■CO₂ 排出量可視化アプリ『北海道ゼロチャレ！家計簿』

北海道は、全国と比べ、家庭における温室効果ガスの排出割合が高く、ご家庭での取組が重要になります。そこで北海道庁では、環境省北海道地方環境事務所と連携し、家庭における CO₂ 排出量を見える化できるアプリを開発しました。それが、「北海道ゼロチャレ！家計簿」です。

アプリは、電気やガス、ガソリンなどの使用量、料金を入力することで、毎月の光熱費と CO₂ 排出量の推移のグラフが自動で作成され、類似世帯との比較や参加者内でのランキングなども表示されます。

2050 年ゼロカーボン洞爺湖町を目指して、町民や事業者のみなさま、ぜひご活用ください。

インストールはコチラ⇒

またはアプリストアにて
「北海道ゼロチャレ！家計簿」で検索

Web版URL
<https://zerocarbon.pref.hokkaido.lg.jp/>

QRコード（Google Play）

QRコード（App Store）

Google Play
で手に入ろう

App Store
からダウンロード

2 取組の進み具合をどうやって確認するの？

（施策に対する KPI 指標）

- これまでに掲げた各基本方針の進捗を管理するための指標（KPI；Key Performance Indicator、重要業績評価指標）を設定し、実効性ある計画の推進を図ります。
- KPI は、短期目標である 2030 年度と長期目標である 2050 年度に分けて設定しますが、ロードマップ同様 2030 年度までは有珠山噴火を考慮し、省エネや情報提供などを重点的に行い、2050 年度までは再エネの導入などスピード感を持って実施する内容とします。また、適宜見直しを図ります。

表 8-1 災害に対するレジリエンス（対応力）強化の KPI

基本方針	対策	KPI (指標)	現状	短期目標 2030 年度 期限	長期目標 2050 年度 期限
①災害に対するレジリエンス（対応力）強化	1. 住民・事業者へ情報提供と導入支援	(1) 公共施設太陽光パネル導入件数	(1) 0	(1) 1	(1) 2
		(2) リフォーム助成利用率（個人）	(2) 0	(2) 100%	(2) 100%
	2. 避難施設のエネルギー自給	(3) 学習会・説明会の開催回数	(3) 年 1 回以上	(3) 年 1 回以上	(3) 年 1 回以上
		(4) 役場庁舎の再エネ由来電力率	(4) 0%	(4) 0%	(4) 100%
	3. 平時の再エネ利用	(5) 防災拠点施設等への再エネ導入件数	(5) 0	(5) 1	(5) 2
		(6) 公用車の次世代自動車（EV、PHEV*等）導入台数	(6) 5	(6) —	(6) 全保有台数

表 8-2 革新と歴史風土の融合による産業の発展と自然環境の維持と脱炭素、自然に立脚した観光業の持続可能性向上の KPI

基本方針	対策	K P I (指標)	現状	短期目標 2030 年度 期限	長期目標 2050 年度 期限
②革新と歴史風土の融合 による産業の発展	1. 洞爺湖サミットのレガシー(遺産)の継承	(1)児童・生徒対象の学習会・ワークショップの実施回数	(1)年1回以上	(1)年1回以上	(1)年1回以上
	2. 次世代を担う若者への理解醸成	(2)有機肥料供給量	(2)1,226t	(2)生産量の全量	(2)生産量の全量
	3. 町内バイオマス資源(有機廃棄物)の有効活用				
	4. 革新的技術への積極的な挑戦	(3)リフォーム助成利用率(事業所)	(3)0%	(3)100%	(3)100%
③自然環境の維持と脱炭素	1. 計画的な森林整備の実施	(1)植樹祭の実施回数	(1)年1回	(1)年1回	(1)年1回
	2. 林業の担い手確保	(2)森林吸収量※1	(2)9千t-CO ₂	(2)9千t-CO ₂	(2)9.9千t-CO ₂
	3. 藻場の再生・造成	(3)上水道への小水力発電導入件数	(3)0	(3)―	(3)1
	4. 未利用資源の利活用	(4)可燃ゴミ量	(4)2,590t	(4)2,433t	(4)2,000t
④自然に立脚した観光業の 持続可能性向上	1. 再エネ・省エネで事業コストを低減	(1)ゼロカーボンパークの達成	(1)未達成	(1)達成	(1)―
	2. 観光に「エコ」の付加価値				
	3. 洞爺湖をゼロカーボンパークに				

※1：毎年度、町有林植栽面積及び民有林植栽面積の実績値を報告する。

3 洞爺湖町のみんなで進める計画

- 本計画の着実な推進を図るために、町民・事業者・行政など、多種多様な地域の関係者同士が積極的なコミュニケーションを取ることができる体制を構築し、連携を深めます。
- 進捗の管理を行うため、町民や町内事業者、学識経験者などで構成する「洞爺湖町地球温暖化対策実行計画推進委員会（仮称）」（以下、計画推進委員会といいます。）を中心に、産学官民のあらゆる主体が連携した推進体制を整えます。また、必要に応じて町外の関係者の参画を求めます。
- 事務局は、ゼロカーボン担当課に置き、役場全体での取組として庁内全体で関与していきます。

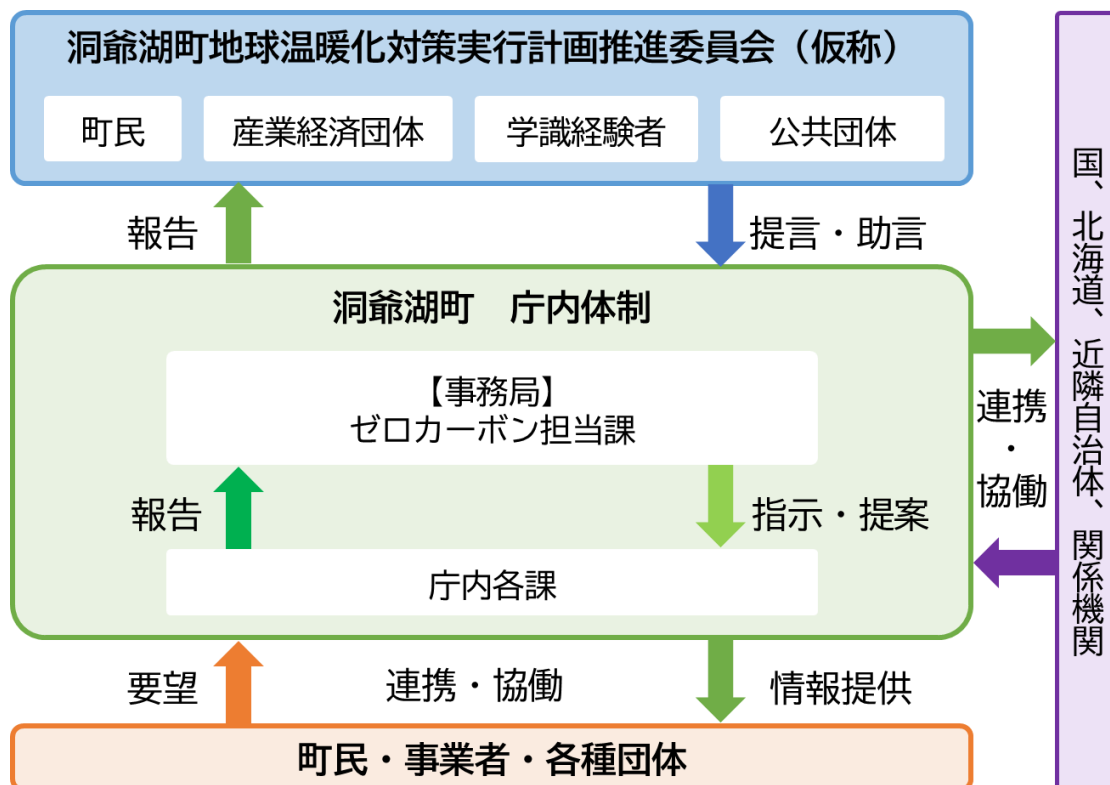


図 8-5 計画の推進体制

4 計画通りに進んでる？ –まわそう！PDCA サイクル–

（計画の進捗管理）

（1）計画の実施状況の把握と評価・点検

- 本計画の実行性を高めるため、毎年度、計画に基づく対策・施策の実施状況について把握し、計画推進委員会などにおいて評価・点検し、必要に応じて対策・施策の見直しを行います。

① Plan : 計画

- 計画推進委員会において、本計画の施策に対する具体案や取組について協議します。
- 計画推進委員会において必要に応じて本計画の見直し・改訂を行います。

② Do : 実行

- 洞爺湖町役場関係部署や計画推進委員会が中心となり、本計画の施策の事業を実施します。
- 町民、事業者、関係団体・機関において活動を実施します。

③ Check : 評価

- 洞爺湖町において本計画の取組目標（KPI）の評価を行って進捗管理を行います。
- 関係部署における施策の取組状況をとりまとめて進捗状況などを評価します。
- 計画推進委員会において取組状況の現況についてとりとめます。
- 得られた進捗状況について公開することで、町民によるチェックを受けます。

④ Act : 改善

○計画推進委員会において、本計画の施策の具体案や取組などをふりかえり、改善の方向性を協議します。

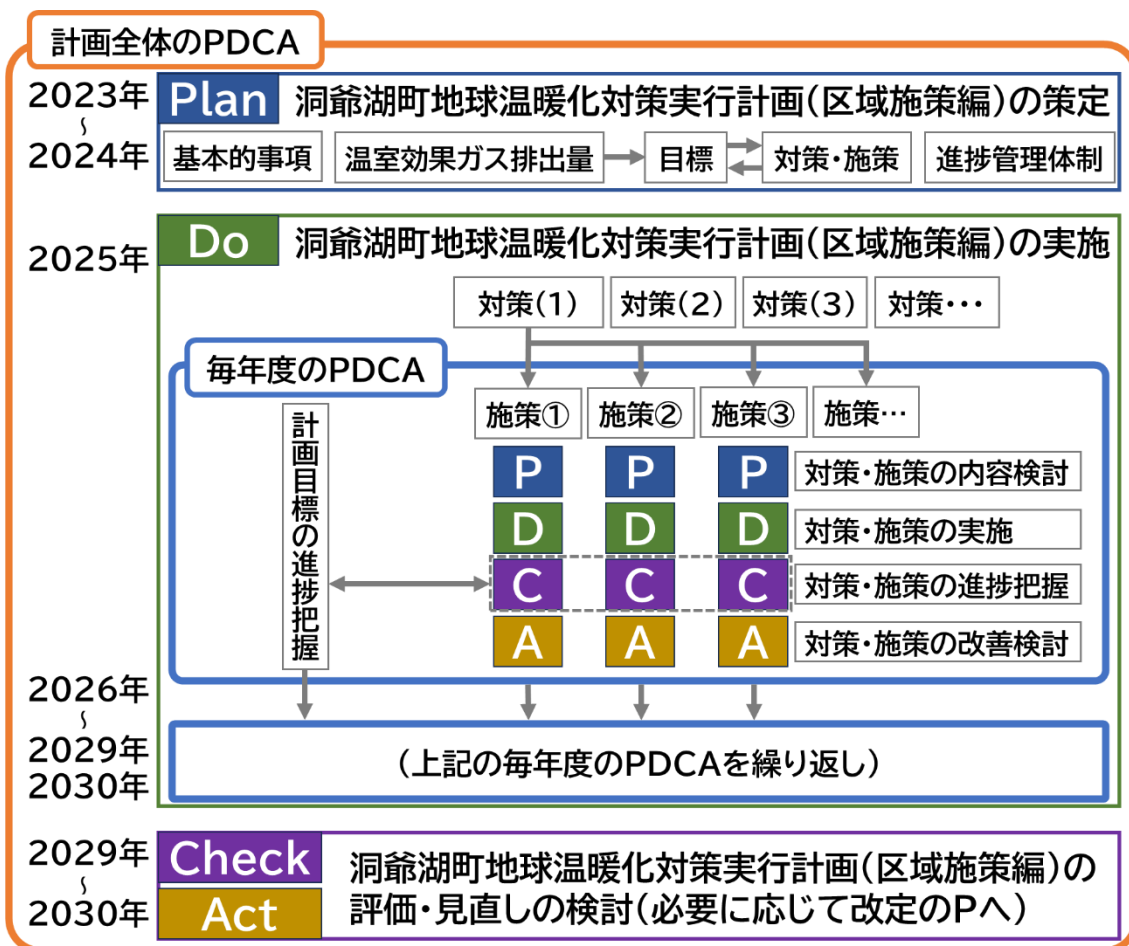


図 8-6 目標達成に向けた PDCA サイクル
出典：環境省

(2) 計画の実施状況の公表

○本計画に基づく対策・施策の実施状況について、毎年度、洞爺湖町のホームページなどにより公表します。

(3) 計画の見直し

○本計画は 2050 年を見据え、2030 年度までを計画年度として取組を進めますが、毎年の進捗状況の評価、対策・施策の課題や社会情勢の変化などを踏まえ、必要に応じて見直しを行います。